

# 市議団速報

e-mail:info@jcp-niigata-shigidan.com NO. 227

2019年6月28日  
日本共産党  
新潟市議会議員団  
電話 025-226-3450  
FAX 025-223-7748

## 9月議会

# BRT、教職員の働き方改革等 について市長の見解を質す

## ——五十嵐完二議員が一般質問——

日本共産党市議団の五十嵐完二議員は21日、①BRTについて②教職員の働き方改革などについて①の2項目について一般質問を行いました。

### 直通便の増便の検討は されているのか

五十嵐議員は、中原市長が「これ以上の直通便の増加は、私としては限界感がある」と、新潟日報社の取材に答えたと報じられたが、真意は何なのか質しました。

中原市長は「直通便を増やすぎれば、特に郊外路線の便数減少につながり、市全体として交通の利便性が低下する恐れがあると考えた」と答弁しました。

五十嵐議員は、3月議会です市長は、「直通便の増便も乗り換え負担軽減策の一つであり、総合的な検討が必要」としながら、それとせず、新潟交通とも協議中にもかかわらず、トップが『限界感』を口にするのは問題だと厳しく指摘しました。

### 『バス利用者アンケート』 の目的は不明、内容の再 検討を

五十嵐議員は市が実施する「バス利用者アンケート」の質問項目

は、現状の路線網は維持しながら乗り換えの不便さを解消してもらいたいという市民の願いに添える質問になっていないと指摘、内容を再検討すべきではないかと迫りました。

【問3】新バスシステム・BRTは、利用者のみならずから乗り換えにご協力をいただくことで、バス路線網を維持していくものですが、この手法についてどう思われますか？（1つに〇）

1. 同意できる
2. 積極的には同意できないが、やむを得ない
3. 路線網の維持は必要だが、乗換への協力は難しい
4. 路線網の維持は必要ない



問題にした【問3】のパネルを示し、  
追求する五十嵐議員

### 教職員の長時間勤務の常態 化が、教員のなり手不足に

五十嵐議員は、2019年度の教員採用試験の倍率が、本市は全国最低水準だったことについて、教育長にどう受け止めているかと質しました。

前田教育長は、「このような状況が継続すると、教職員の確保が難しくなる事から、危機的状況であると受け止めている」と答弁しました。

### 市独自の教職員の増員を

五十嵐議員は、厚生労働省の2018年度「過労死白書」によれば、教職員の80.7%が「業務に関連するストレスや悩みを抱えている」と回答しており、中でも一番多いのが「長時間勤務の多さ」であり、必要な対策を教職員に尋ねると、「教員の増員」との回答が圧倒的だったとして、国に対して要望するだけでなく、市独自で増員するよう求めました。

中原市長は増員の必要性は認めながら、市独自では考えていないと答弁しました。

また、五十嵐議員は「第2次多忙化解消行動計画」初年度であった昨

日本共産党発行  
『教職員の働き方を変えたい』パンフより

年度の実態について質問し、前田教育長は、時間外勤務時間が1か月45時間以下の教職員が増えおり、一定の成果があったものの、さらなる取組が必要と答弁しました。

### 特別支援教育支援員の時間 短縮を元に戻すべき

五十嵐議員は、今年の4月から特別支援教育支援員の勤務時間が、6.5時間から5.5時間に短縮されて、学校現場では混乱が生まれており、来年度から会計年度任用職員になることから、元に戻すよう強く要望しました。